

「夏の再拡大防止特別対策（道案）」に対する主な意見

1 有識者・専門家等の意見

1-①

新規感染者の下げ止まり、感染経路不明者や30歳代の割合の増加、そしてデルタ株など、心配な要因が数多くある。しかも、あと2週間ほどで学校も夏休みとなることを考えると、ご提案の通り、「夏の再拡大防止特別対策」が大切になると考える。

対策の内容については、異論はないが、報道にもあったよう時短命令に従わない飲食店への厳密な過料手続きの実行と時短に従っている店への補償などめりはりのきいた対応をしていただきたい。

また、学校が夏休みに入ることもあり、動物園等の施設利用者への検温等のしっかりとした対応をお願いしたい。また、中学校・高校の部活が再開している学校が多いが、夕方、コンビニにより飲み食いしている姿を見るようになった。校内のみならず、下校後の指導も強化するとよいのではないかと。

1-②

今回の対策については、まん延防止終了後も札幌市を重点地域とすること、その対策内容とも、異存なし。

直近の感染者数自体はそこまで増えていないが、札幌市内のリンク無し割合の急増、デルタ株の増加状況からすると、先手の対策が必要と考える。

1-③

道の案に異論なし。

札幌から次の感染の波が全道に波及しないようにしなければならないと考える。

オリンピック・夏休み・お盆休みと人の移動の多くなる季節をいかに少なくするかが重要。ワクチン接種と医療の確保が十分進むまで、札幌市民に頑張ってもらいたい。

1-④

対策について異論なし。

重点地域では、感染増加が見られる場合は対策延長を含めた強い措置を講ずるとしている通り、今後、状況が悪化した場合は躊躇なく判断していただきたい。

事業所、学校における集団感染の発生が散発的に続いていることから、発生事例の傾向と対策を示し、改めて事業所における感染対策の徹底を呼び掛けてほしい。

1-⑤

札幌市においては、感染経路不明割合が高い数値を示し感染者数が下げ止まっており、予断を許さない局面が続いていると認識している。

また、札幌市の感染拡大が全道に波及してきたこれまでの傾向を踏まえると、札幌市を重点地域として感染拡大防止の一層の徹底を図る今回の措置は妥当な判断であると受け止めている。

道におかれては、札幌市と連携の上、飲食店の営業時間延長に伴う感染拡大が生じないように、アクリル板の設置等の感染防止対策を再徹底いただくとともに、道民の札幌市との往来自粛、「新北海道スタイル」の実践などを周知徹底し、札幌市の感染者数の減少と全道への感染波及の防止に最大限注力していただきたい。

今般定めた「夏の再拡大防止特別対策期間」におけるワクチン接種の加速化に向けて、道におかれては、医師会や市町村との連携をより一層強化し、市町村や職域接種を申請した企業に対する着実なワクチン供給を国に強力に働きかけていただくとともに、道の設置する大規模接種会場の効率的かつ柔軟な運用等による接種回数および接種年代の拡大を図るようお願いしたい。

当会としても、引き続き緊張感を維持しながら、会員企業に対するテレワーク等の継続を通じた人流や接触機会の削減ならびにワクチン休暇の推奨等を周知徹底し、感染拡大の収束と社会経済活動の両立に向けた取り組みを進めていく。

1-⑥

段階的な緩和を行う道の対策案について異論はない。

時短措置の必要性や解除に向けた目標など、指標データ等を用いて道民に分かりやすく伝えることで対策への理解・協力が進むと考える。

1-⑦

全体の対策のなかで、ワクチン接種拡大などに向けた行政側の取組みについても記述すべきではないか。ワクチン接種が感染防止対策の現在の要となっており、「関係機関と連携して、接種拡大に最大限努力する」くらいは記載する必要があるのではないかと考える。

札幌市について、2週間の強い対策を残すことに関して、基本的には指標となる数値に基づいて、規制や規制解除をすべきかと考えるので、丁寧にその意味や効果などについて、説明すべきでないかと思う。

また、解除できなくはない状況なども踏まえ、例えば、「本来は一段の解除もあるが、感染拡大の芽をしっかりと抑え、ワクチン接種拡大と相まって、いち早く普通の生活、経済を持続的に確保するために、いま一段の協力をしてほしい」といったメッセージを出す必要があると思う。

今回の対策にはまだリンクできないとは思いますが、若者などのワクチン接種拡大に向けて、旅行などでの補助などの対策も考えていく必要があると思う

1-⑧

緊急事態宣言以前と変わらぬ状態に人流が戻りつつある。新規感染者数も先週に比べ増えてきており、変異株への置き換わりが進むことを懸念する。

唯一の有効手段とされるワクチンの確保が安定していない為、予約の中止など見通しを立てることができない状況にあり、医療機関にも負担をかけている。ワクチン確保に注力をお願いしたい。

1-⑨

道案については異論なし。

近いうちにデルタ株が蔓延すると思われるので、特に札幌市は注意を

お願いする。

ワクチンについては、供給が減少するが可能な限り在庫を溜めずに、すみやかな接種をお願いする。

1-⑩

デルタ株陽性者の増加、人数が減ってきているにも関わらず感染経路不明者が増加傾向にあることから、今後近いうちに再び患者数が増えてくることが予想される。

東京近辺の五輪開催が無観客になる中、マラソン、競歩はチケットなしで雰囲気味わえることから、札幌に全国から人が集まる可能性は否定できない。また、そのような人達が、道内のほかの地域に足を延ばすことも十分に想定される。

現在の感染状況からは、東京、大阪からの来道者に対するPCR検査、抗原定量検査の提供も有効な対策の一つであるが、状況によっては他の地域からの移動者に対しても、必要な対策を検討いただくとともに、ワクチン接種をした場合でもこれまで同様に感染予防対策を徹底することを呼び掛けていただきたい。

2 市町村・関係団体の意見

2-①

小樽市の昨今の感染状況としては、週合計で1～2名、人口10万人当たりの新規感染者数は0.9～1.9人であり、北海道における警戒ステージ2を下回っていることから、札幌市のみを重点地域としている今回の対策には同意する。

ただし全道の感染状況は、新規感染者が下げ止まりの状況であり、また、デルタ株の疑い例も急速に増えてきているため、今後、感染拡大に転じた場合には、「札幌圏」という圏域に配慮いただき、然るべく対策を検討いただきたい。

2-②

今週に入り、新規感染者数が増加傾向となり、あわせて、感染経路不明者も増加している状況。デルタ株感染者も確認されていることから、引き続き注意が必要と考える。特にデルタ株のチェックは徹底して行っていただき、感染拡大にならないようにしていただきたい

2-③

「特に飲食の際は」の要請内容について、「飲食店の利用の際には、店が実施している感染防止対策に協力する」を追加していただきたい。

2-④

感染予防対策としてワクチン接種は非常に有効な手段であるが、都道府県の中で北海道の接種率が低い現状であることから、接種率を高めるための新たな手法を検討するべき。また、職域接種については、新規申請受付が休止している状況から、早期再開について国に強く要請願うとともに、道として情報提供に努めるだけでなく、各種調整に積極的に関与して円滑な実施をサポート願いたい。

検査陽性率、新規感染者数、感染経路不明割合が先週1週間と比較し

て増加するなど懸念材料もあることから、特別対策を講じることはやむを得ないものと考える。

2-⑤

これまでも繰り返し求めて来たとおり、「移動」自体の感染リスクが高いとの挙証はなく、「移動する行為自体はリスクが低いこと」と「移動先での過ごし方によってはリスクが高まること」とを明確に分けた上で、各々に対策を策定し、的確な情報発信をすべきと考える。

2-⑥

札幌市内の時短要請について、「営業時間の変更」の要請ということで、影響を被る事業者に協力いただくためにも、取引事業者を含め、手厚い支援策が伴うことはもとより、納得感の伴う本対策の効果・必要性の丁寧な説明をお願いしたい。

新規感染者数、入院患者数は減少傾向にあったものの先週比で上回る日が増加傾向にあり、加えてここ2日は60人を超えてきている。

第4波（3月頃）のように、対策終了後、さほど間を空けず、増加に転じる可能性も否定できないことから、実効再生産数のモニタリング等を強化し、弾力的な施策を展開いただきたい。

職域接種については、各地から、「打ち手などの確保ができて、肝心のワクチンが確保できない」との声が寄せられている。市町村が求めるワクチンが確実に配分されるよう、改めて国に強く申し入れていただきたい。

また、北海道は全国的にみても接種が遅れている地域である。特に65歳以上の接種率は、全国と比べても、1回目接種で15%、2回目接種で10%程度、低位にある。この全国との接種率の差は本当に供給量が足りていないだけなのか。接種率が見劣りしている原因について、分析・精査いただき、道民不安払拭に努めていただくとともに、全国水準への早期キヤッチアップに向け、余市モデル等も参考にさせていただき、官民挙げての接種体制の拡充・追加施策をとっていただきたい。